

厚真ライオンズクラブ認証40周年記念誌刊行によせて

厚真町長 宮坂尚市朗

厚真ライオンズクラブの国際協会認証40周年を心からお祝い申し上げます。また、結成以来、今日まで社会奉仕の精神の下、地域社会の発展に大きくご貢献をいただき、改めて感謝申し上げます。

認証は、1974年（昭和49年）に遡ることになりますが、当時は、厚真ダム建設や国営パイロット事業など農業構造改善事業の完成間もない頃であり、苫小牧東部大規模工業基地構想に翻弄されつつも本町が高揚感や躍動感に包まれていた時代でありました。そうした折に、チャーターメンバーが「Liberty, Intelligence, Our Nation's Safety」という高い理想のもとに結集し、北海道においては145番目となる厚真ライオンズクラブの礎を築かれました。現在もご健在で活躍されているチャーターメンバーがおられますが、これまでに多数の新たなメンバーを招請しながら、常に時代や地域社会の要請にこたえ様々なアクティビティを展開していただきました。

京町公園にあるモニュメント「希望の像」や福祉センターなど公共施設前の標語版付時計塔、道道沿いの広告塔、移動図書車、浜厚真野原公園管理棟など世代を超えて町民から親しまれる施設を設置していただきました。また、新入学児童への記念品贈呈、子どもの日に合わせた大規模な鯉のぼり掲揚、文化祭の意見発表会など次代を担う子どもたちの健やかな成長を願っての活動や歳末の高齢者独居世帯の慰問、北海道厚真福祉会各行事への参加・慰問、交通安全運動街頭啓発、町民植樹祭への参加、災害見舞金寄付など、地域の安全・安心確保や福祉の向上など本町の環境や実状に合わせた奉仕活動を積み重ねてきていただいております。お蔭をもちまして、本町は、質の高い福祉の町として町民の皆様から高く評価されており、一次産業基盤の整備とともに住民自治の深化に向けて粘り強く歩みを進めているところであり、今後とも会員の皆様のお力添えを重ねてお願い申し上げます。

もとより会員の皆様には、日々「知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する」との誓いを守りながら、地域社会のリーダーとして活躍されており、また、後進を育てるための人材発掘にも力を入れていただいております。「家、家にあらず、継ぐをもって家となす。人、人にあらず、知るをもって人となす」世阿弥の言葉ですが、芸能の世界に限らず文化や技術の発展のためには意志と努力が必要であり、その背景に公民道徳があつて人類や社会の進歩があるのだと思います。まちづくりに不可欠な協働という理念を実現するためにも、この崇高なLionism思想が会員の皆様によって広く普及されていくことを期待しています。

結びに、厚真ライオンズクラブの益々のご発展とライオンと呼ばれる会員皆様のご健勝を心からご祈念申し上げ、祝辞といたします。